

今週（6月5日から6月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、GCLレポレートの上昇を受け、一部で裁定取引による運用ニーズが減退した事で、全体のオファー目線が上昇となった。一方ビッドサイドでは、前週末に税揚げを通過した事や、積み期間が終盤に差し掛かってきた事で、調達ニーズの高まりが見られた。結果、加重平均レートは週初5日に▲0.068%で始まったものの、その後は急速に上昇する展開となり、8日には▲0.039%まで上昇した。9日は、今積み期間最後の週末3日積みとなった事から、一段と上昇する展開となった。

ターム物に関しては、週前半はショートターム物を中心に▲0.06%近辺での出会いが見られていたが、O/N物のレート上昇に伴い、週後半には▲0.03%台での出会いも散見された。

今週の日銀当座預金残高は534兆円程度で始まり、7日に30年債の発行によりやや減少したものの、週を通して大きな増減はなく、概ね533兆円前後で落ち着いて推移した。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.11～▲0.085%のレンジでの取引となった。足元GCは投資家、業者ともにオファーが多く、週を通してレートは上昇基調を辿った。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、1Yゾーンが堅調に推移した一方で、レポレートの上昇傾向を受けてか、3Mゾーンは軟調に推移した。

8日に実施された6M物の入札は、按分落札利回り▲0.1563%、平均落札利回り▲0.1683%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、小じっかりと推移した。9日に実施された3M物の入札は、按分落札利回り▲0.1663%、平均落札利回り▲0.1792%と、堅調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、落ち着いた展開となった。

短国買入オペは、6日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差+0.002%、平均利回較差+0.003%と、無難な結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、電気機器・医薬品・鉄鋼等の複数業態で大型発行が行われた。

週間の金額ベースでは発行超のマーケットとなり、堅調な発行を背景に市場残高は25兆円台後半で推移している。

発行レートについては、日銀適格担保銘柄では概ね浅いマイナスから0%程度での決着となっている。

CP等買入オペは8日に4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート▲0.007%、平均レート+0.006%と、前回(全取+0.002%、平均+0.014%)比で、最低落札レート、平均レートとも低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/5 (月)	32,217.43	0.430	140.14	△ 0.068	△ 0.102	5,344,300
6/6 (火)	32,506.78	0.420	139.54	△ 0.058	△ 0.100	5,342,900
6/7 (水)	31,913.74	0.415	139.45	△ 0.047	△ 0.093	5,328,600
6/8 (木)	31,641.27	0.435	139.87	△ 0.039	△ 0.092	5,333,100
6/9 (金)	32,265.17	0.430	139.06	△ 0.028	△ 0.089	5,321,600

来週（6月12日から6月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
6/12 (月)	5月の企業物価指数(日銀 8:50)		5月の米財政収支
6/13 (火)	4-6月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	流動性供給 5,000億円 6/14発行	米FOMC(1日目) 5月の米消費者物価指数
6/14 (水)			米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 5月の米生産者物価指数
6/15 (木)	日銀金融政策決定会合(1日目 14:00~) 4月の機械受注統計(内閣府 8:50) 5月の貿易統計(財務省 8:50) 4月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 63,000億円 6/19発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 5月の米小売売上高 5月の米鉱工業生産・設備稼働率 4月の米企業在庫
6/16 (金)	日銀金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 4月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)		6月のミシガン大消費者信頼感指数速報 5月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/12 (月)	0	▲ 100	▲ 100	国債買入 国債補充	32,200	15,600	47,800	47,700	TB3M発行▲63,000償還63,000 TB6M発行▲40,000償還40,000
6/13 (火)	▲ 100	3,000	2,900	CP買入		4,000	4,000	6,900	
6/14 (水)	0	▲ 8,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	源泉所得税揚げ 社会保障費 流動性供給▲5,000
6/15 (木)	▲ 900	72,000	71,100				0	71,100	年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲2,200 個人向け3Y・5Y償還390 交付税借入▲13,000期日13,000
6/16 (金)	▲ 1,300	▲ 5,000	▲ 6,300				0	▲ 6,300	
週間合計	▲ 2,300	61,900	59,600	—	32,200	19,600	51,800	111,400	

6/12は日銀予想、6/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、週後半に積み最終日を控える。調達サイドには積みの進捗に目途が付き始めている先も出てきていることから、無担保コールO/N物のレート水準はやや低下し、落ち着いた展開が予想される。

債券レポ GC T/N物は、▲0.15～▲0.080%のレンジでの推移が予想される。

短国市場は、15日に3M物の入札実施が予定されている。また、13日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。

CP市場は、15日、20日を挟む発行集中日が予定されており、動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、15-16日に日銀金融政策決定会合、海外では、13日に5月の米消費者物価指数、13-14日に米FOMC、15日にECB定例理事会、16日に5月のユーロ圏消費者物価指数改定値などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。